平成 27 年度　第 1 回ＪＳＲ編集委員会　議事録

日時：平成 27 年 4 月 17 日（金）　7：00-8：00
会場：福岡国際会議場　４Ｆ　401

出席者：平林 茂（担当理事）、川口 善治（委員長）、青田 洋一、赤澤 努
石井 賢、寒竹 司、税田 和夫、高橋 寛、二階堂 琢也、長谷 斉、
長谷川 和宏、福岡 宗良
オブザーバー：加藤 文彦
（以上、13 名）
欠席者：伊東　学
陪席：三輪様（ＣＢＲ）、尾島様（JSR 編集分室）、事務局鈴木

【議題】

１．関連学会の編集委員長報告

各関連学会より、現状の報告がなされた。査読進捗が遅い査読員がいるとの話や、現在の原稿進捗状況、投稿数が減ってきていることなどが報告された。

２．オンライン実施後の報告事項

平林理事が、オンラインでのＪＳＲ閲覧が可能になって以降、特に大きな問題やクレームはないことを報告した。
川口委員長が、非会員のバナーなどもありＪＳＳＲ会員・関連学会の会員（ＪＳＳＲ非会員）にも使いやすく、また検索機能も充実していると意見を述べた。
平林理事が、次のパスワード変更についていつごろになるかとＣＢＲ三輪氏に問いかけ、三輪氏が年末を予定しており、１２月から１月にかけては、新旧どちらのパスワードでも閲覧可能なように設定すると説明した。

3. 今年度の企業からの広告代申し込みの最終報告 (資料 1)

川口委員長が、今年度の広告申し込み報告をした。委員各位の尽力でほぼ昨年と同額の約１３００万円を集めることができたとお礼を述べた。

４．分担金に対する関連学会の考えの確認

川口委員長が、分担金１５０万円について現在の各関連学会の意向を尋ねた。
高橋委員が、評議員会等で報告されたＪＳＳＲの潤沢な資金状況を見ると、どの学会も財務的に苦しいので金額を引き下げてもらえれば助かるのだが、と発言した。

川口委員長が、具体的にはどの程度までの引き下げが希望かと質問し、高橋委員がたとえば５０万円マイナスの１００万円程度と回答し、他学会の責任者も賛同した。
平林理事が、以前は持田理事長から分担金は据え置くようにとの指示があったが、再度理事会での審議を要請すると発言した。

５．第６巻５号の発刊予定状況（資料 2）

川口委員長が、第６巻５号の発刊予定状況について委員各位の協力により多くの英文原著が集まり、順調に編集作業も進められていると報告した。会員にもよい影響（英文原稿投稿の呼び水となるような）を与えられるのではないかと考えていると発言した。

６．第 7 巻以降の 5 号の編集について

川口委員長が、すでに委員には報告されていることだが、第 7 巻以降の 5 号の編集についてＪＳＳＲ学術集会での優秀発表を論文化した特集号になると発言した。
長谷川委員が、年２回（号）が今後はＪＳＳＲ学術集会の優秀発表論文号になるということだが、英文論文の投稿を推奨するのかと尋ねた。
平林理事が、英文のほうが好ましいと理事長からも発言があったが、現状は和英どちらでも問題ないと回答した。
このたびの第４４回学術集会の主催校所属の寒竹委員が、優秀発表の選出方法について説明した。
学術集会での抄録で選出したトップ 50～100 のリストについては、後日事務局から学術集会運営事務局へ問い合わせ、編集分室尾島氏へ回送することになった。

７．今期の JSR の発刊の見通し（資料 3）

川口委員長が、今期のＪＳＲの発刊について、5 号以外は例年と特に大きく変わるところはないと報告した。

８．関連学会における編集方法の統一の確認

平林理事が、日本側彎症学会の雑誌への投稿数が減っているとのことだが、その代わりに他の雑誌へ投稿されているのだろうかと赤澤委員に尋ねたが、赤澤委員は不明であると回答した。
長谷川委員が、昔は側彎症学会雑誌の採択率は 100％だったが、今はリジェクトされるため減ったのかもしれないと意見を述べた。

長谷委員が、7 割の採択率を守ろうとして、掲載数が 20 編以下になってしまうと雑誌として体をなさなくなるのではないかと編集分室の尾島氏に問いかけ、尾島氏が同意した。
高橋委員が、日本低侵襲脊椎外科学会（JASMISS）は、投稿数は減っておらず、投稿数は 24-25 編ほどで、16-17 編を掲載していると報告した。
尾島氏が、雑誌として見栄えがするのはだいたい 17 編以上からと説明した。
寒竹委員が、西日本脊椎研究会では 2 号分担当していたところを、今年から 1 号分となったため、今まで採択率を 100%としていたが、ここで 7 割にする予定であると説明し、おそらく投稿数も減ってくることが予測されると説明した。今後は完全英文の論文集としてベストペーパー賞なども準備し、英文化にかかる費用は補助していければと考えていると発言した。
川口委員長が、7 割の採択率は絶対ではないので各団体で投稿数の減少が大幅なものであれば、採択率を少し上げても問題ないと考えると発言した。
平林理事が、クオリティを保てれば、採択率が 8 割弱になってもかまわないと考えると川口委員長に同意した。

９．次期委員会への要望事項

川口委員長が、来年の評議員会で理事会もメンバーが変わるため、当委員会についても以降メンバーが変更になる予定であると説明した。
青田委員が、今後の委員会開催はいつだろうかと質問し、川口委員長が通例では 4 月のＪＳＳＲ学術集会中は必須で、5 月の日整会と 10 の日整会基礎学術集会時に開催することが多いとしつつ、今年の 5 月には開催しない予定であると説明した。
次回の委員会開催日程については、10 月 22 日または 23 日を予定することになった。

以上